

《担当者名》 萩野 悦子 <hagino@hoku-iryo-u.ac.jp>
 竹生 礼子 <take-r@hoku-iryo-u.ac.jp>
 大友 芳恵 <otomo16@hoku-iryo-u.ac.jp>

【概要】

Aging in

Placeの考え方をベースに、地域で生活する高齢者に起こりやすい複雑かつ多様な健康問題と倫理的課題を学び、高齢者とその家族に対する倫理的な判断を含むcureとcareを統合した高度な看護実践を、多職種で協働して行っていくための調整力と実践力を身につける。

【学修目標】

- 1) 地域で生活する高齢者に起こりやすい複雑かつ多様な健康問題や倫理的課題について説明できる。
- 2) 在宅や施設で生活する高齢者に起こりやすい事故やリスクの予防、発生時の早期対応と回復に向けて支援するために必要なcureとcareを統合した看護実践と体制づくりについて説明できる。
- 3) 複雑かつ多様な健康問題を抱えて入院治療を受ける高齢者の入院に伴い生じるリロケーションストレスシンドロームやせん妄などのリスクについて説明でき、入院から在宅復帰に向けてcureとcareを統合した看護実践と、シームレスな支援に必要な連携・調整について考えることができる。
- 4) 人生の最終段階（終末期）にある高齢者のその人らしい尊厳ある生き方を最期まで支えるために、高齢者とその家族、保健医療福祉職との間で生じる倫理的ジレンマに対する倫理調整と、終末期における高齢者の身体徴候を踏まえた緩和ケアを実践する力を身につける。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	地域で生活する高齢者に起こりやすい複雑かつ多様な健康問題と倫理的課題	地域で生活する高齢者に起こりやすい複雑かつ多様な健康問題と倫理的課題	萩野 悦子 竹生 礼子
2	地域で生活する高齢者に起こりやすい複雑かつ多様な健康問題と倫理的課題	複雑な健康問題を抱えながら生活する高齢者とその家族の「生活の場」の決定：独居世帯や高齢者夫婦のみ世帯などの世帯構成や、多様な健康状態にある高齢者を想定した地域包括ケア体制づくりと、自己決定を支援する看護実践	大友 芳恵 萩野 悦子
3	在宅や施設で生活する高齢者と家族に対するcureとcareを統合した看護実践	在宅や施設で生活する高齢者に起こりやすい事故やリスク(転倒・転落や窒息、誤嚥性肺炎、熱傷、熱中症などを含む)の実態と課題	竹生 礼子
4	在宅や施設で生活する高齢者と家族に対するcureとcareを統合した看護実践	リスクマネジメントとセーフティマネジメントの観点から、フォーマル・インフォーマルサービスを活用した当事者主体の多職種協働による事故防止および救急対応可能な体制づくりと、cureとcareを統合した看護実践	竹生 礼子
5	複雑かつ多様な健康問題を抱えて入院治療を受ける高齢者の在宅復帰にむけてのシームレスな支援	入院に伴い生じる高齢者のリロケーションストレスシンドロームやせん妄の予防、身体拘束ゼロに向けた活動と、合併症からの早期回復および生活機能の向上・維持に向けたcureとcareを統合した看護実践	萩野 悦子
6	複雑かつ多様な健康問題を抱えて入院治療を受ける高齢者の在宅復帰にむけてのシームレスな支援	在宅復帰にむけてのシームレスな体制づくり：早期からの医療と介護の連携調整、地域におけるケア提供者、外来と病棟の看護師の連携、退院調整支援のための家族介護力や地域におけるサポート資源の評価	萩野 悦子
7	終末期にある認知症をもつ高齢者が尊厳ある死を迎えるための支援	終末期にむけての認知症をもつ高齢者と家族の意思決定における倫理的ジレンマと倫理調整	萩野 悦子
8	終末期にある認知症をもつ高齢者が尊厳ある死を迎えるための支援	終末期にある認知症をもつ高齢者の身体徴候や苦痛を捉え、緩和ケアをはじめとするcureとcareを統合した高度な看護実践と、家族を含む多職種との協働	竹生 礼子

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

プレゼンテーション（見やすい資料・わかりやすい説明）（40%）、参加状況（準備・質疑）（30%）、レポート（30%）により総合的に評価する。

【参考書】

- 1)厚生労働統計協会(2016)．国民衛生の動向．厚生労働統計協会．
- 10)清水哲郎(2014)．教育・事例検討・研究に役立つ 看護倫理実践事例46 場面別・倫理的判断のプロセスがわかる．日総研．
- 11)スーディ神崎加代・竹生礼子・鹿内あずさ・御麻美登里(2016)．医療事前指示書 私への医療・私の終末期はこうしてほしい．ナカニシヤ出版．
- 2)厚生労働統計協会(2016)．国民の福祉と介護の動向．厚生労働統計協会．
- 3)臺 有桂他(2015)．ナース・グラフィカ在宅看護論 地域療養を支えるケア．メディカ出版．
- 4)森田達也・白土明美(2015)．死亡直前と看取りのエビデンス．医学書院．
- 5)井部俊子・大生定義(2015)．専門看護師の思考と実践．医学書院．
- 6)リンS.ピックリー、ピーターG.シラギ(2015)．ベイツ診察法 第2版．メディカルサイエンス・インターナショナル．
- 7)中島紀恵子監修(2017)．認知症の人びとの看護．第3版．医歯薬出版株式会社．
- 8)日本老年医学会編(2012)．高齢者ケアの意志決定プロセスに関するガイドライン 人工的水分・栄養補給の導入を中心として 2012年版．医学と看護社．
- 9)石垣靖子・清水哲郎編(2012)．臨床倫理ベーシックレッスン -身近な事例から倫理的問題を学ぶ．日本看護協会出版会．

【学修の準備】

- 1) 事前に提示した到達目標に合わせて、関連資料の収集・文献講読をしておくこと。
- 2) 課題ごとに分担を決定し、各自プレゼンテーションのための資料作成、討議の論点を整理しておくこと。
- 3) プレゼンテーション担当以外の課題についても、討議ができるように理解した点や疑問を整理して臨むこと。

【学習方法】

1～2回目は講義と討議、3～8回目は課題ごとに分担した担当者が作成したレジюмеをもとに発表し、高齢者やその家族への倫理的判断を含むcureとcareを統合した高度な看護実践を、多職種協働して提供するための調整や実践の方法について討議する。